

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

臨時号

令和 5年 3月15日 発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

恩師と友人たち

校長 吉原 誠 士

今年の卒業式はこれまでとはまた違った感慨をもって迎えることとなりました。ひと月前、自分の中学校3年の時に担任だった先生に向けて「お別れの言葉」を読み上げたばかりだからです。当時、私は15歳、先生は意気上がる二十代後半の体育教師でした。ご本人は体育が得意でもない私が、46年も経ってこうした役を引き受けるとは思いもしなかったでしょう。たくさんの偶然も重なった巡り合わせの結果です。皆は、長い付き合いを続けられそうな縁は生まれましたか。まあ、私自身が107歳となる46年後、卒業するみんなの成長した姿に感銘を受けたいと考えるのは贅沢な望みでしょうけど。

恩師との交流は続けてもらいたいものです。昭和五十年代、どの学校にも恐ろしいとしか思えない職員がいて、同じクラスの友人が余りにも凄惨な目に遭わされたことがありました。直後に駆け付けた先生は怒りに満ちた表情で「・・・野郎!」と呟き、その職員の方に向かったのです。生徒たちの間に無責任ながら期待感のようなものが湧いたものの、暴力の応酬はありませんでした。しかし、教員同士であってもダメなものはダメとはっきり言い、守るべき者を守るとなれば妥協しない姿に実は驚いていたのでした。教職に就いてからその時のことを聞きたくなり、集まる機会をもちました。ところが私の方が「卒業してから、お前に一体何が起こったんだ」と尋ねられてしまい、肝心の質問はできないままになりました。人前で活躍できず、あまりパツとしない風情だった当時と、教員となってからの姿に落差があって戸惑わせたとすれば、多少なりとも成長を認めてもらえたということでしょうか。

一緒にお別れの会に参列した仲間とも約50年の付き合いになります。中学校までの友人には「恥ずかしい話」が全て知られています。そうなる自分飾ることもお互い張り合うことも必要がなく、却って楽に過ごせます。だから、毎度の宴は各人の「失敗談」を中心に進み、爆笑の内に進行するのがお約束です。私の自慢は理科と社会では無敵だった話なのに、「3年生最後のテストで遂に敗れた」のがオチになっています。先生も一緒に楽しむ機会は何回かありましたが、コロナ禍の影響で延期の繰り返しとなり残念でした。卒業式の日最後の学活で「死ぬなよ、どんなことがあっても生きる。そうやってまた会おうな」と話されていた方です。その身を危険にさらすわけにはいきませんでした。

さあ、改めて振り返ると皆にとって特に印象に残ったのはどのようなシーンですか。影響を与えてくれる大人との出会いはありましたか。自分の失敗話を語り受け止めてくれる友達は何人できましたか。社会人になって、数多のライバルに囲まれた時、仕事のストレスがたまった時、格好がつかず苦しくなった時、予想もしなかった人生の困難に直面した時、思う存分に喜怒哀楽を表現したいとき・・・恩師や教室で生活を共にした仲間の中に、必ずわかってくれる“奴ら”がいるはずです。逆に言えばそういう話が自分に投げかけられたら、自分は選ばれた“奴”だと自覚し、決して裏切ることなく接することをお願いします。さあ、これから何年の付き合いになるのかな。22世紀までいけるかもしれません。

卒業おめでとうございます。

皆さんが、明るい未来を切り拓くことを祈念し、同時に期待しています。